

国語科学習指導案

日時 2005年12月8日(木) 第4教時
児童 第5学年 27名
指導者 教諭

1. 単元名 「五 生き方を見つめて読もう」
2. 教材名 「大造じいさんとがん」

3. 教材の目標

誌 登場人物の行動やせりふから、心情の変化を読みとる。

評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○登場人物に共感し、友達との話し合いを通して、作品を読み味わおうとする。	○登場人物の行動やせりふから、心情の変化を読みとる。	○仮名遣いに注意して正しく使う。

4. 教材について

「大造じいさんとがん」は登場人物の行動から気持ちを想像し、人物の生き方についても考えを深めていくことをねらった「読むこと」の教材である。猟師である大造じいさんと、がんの群れを率いる「残雪」と名付けられた一羽のがんとの生活と生命をかけた戦いが、美しい情景描写とともに生き生きと描かれている作品である。

本教材は、残雪をとらえるために、毎年いろいろな方法で迎えうつ大造じいさんの猟師としての姿を、場面ごとに読み取ることができる。ある年、大造じいさんは一羽のおとりのがんを使って残雪を捕らえようとするが、そのおとりのがんが、はやぶさに襲われる。それを見た残雪は、おとりのがんを救うために、自らの危険をも顧みず敢然とはやぶさに立ち向かっていく。残雪をねらうために、はじめは執念深く、子どもの目からはずるい方法にうつるかもしれない大造じいさんの行動も、はやぶさと残雪との対決で大きな変化を迎え、子どもたちのじいさんに対する思いも変わるであろう。

「なぜ大造じいさんは残雪を撃たなかったのか。」「どんな気持ちの変化があったのか。」「大造じいさんはどんな人なのだろうか。」ということなど、大造じいさんの心情をいろいろな角度からとらえ考えていくことが可能である。

登場人物の行動や心情をていねいに読み進めることで、大造じいさんがもつ、単に優しいだけでなく「残雪をねらう猟師としての厳しい姿」も、この時期の子どもたちに人の生き方を考える良い機会となるだろう。

本学級の児童は、明るく元気で発表に意欲的な児童も多い。落ち着かない場面もあるが、注意に素直に従い学習に取り組むことができる。児童間で注意し合う力も育ってきている。国語科の学習では音読を、一学期より継続的に取り組んできたことにより、苦手な児童も意欲的にとりくむことができるようになった。また、自分の考えを含め感想をもつことができるようになってきた。

しかし、基本的な生活習慣や学力に差があるため、文章で書き表すことが苦手な児童や、音読がスムーズにできない児童もいる。また、授業中の簡単な発問には挙手も多いが、少々難しい発問になると、挙手が一部の児童に偏る場面もある。

本教材の学習を通し、登場人物の生き方に共感しながら、児童一人ひとりが作品をていねいに

読み、心情の変化を読みとることによって、考えながら読む力を育てていきたい。

5. 指導計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動	学習活動における評価規準
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習のとびら」をもとに単元全体の内容を確認、学習の見通しをもつ。 ○ 「大造じいさんとがん」を読み、初発の感想を書き、心に残った場面や情景が目浮かぶ文章を書き抜く。 ○ 一次感想を交流する。 ○ 新出漢字、わからない言葉の意味を調べる。 	<p>【関】単元全体の見通しをもったり、物語の題名に興味をもってすすんで学習に参加している。</p> <p>【言】新出漢字の学習と、意味の分からない言葉の意味を調べることができる。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の目あてを確認、学習場面を音読する。 ○ 1の場面を読み、大造じいさんが残雪をとらえるためにどのようなことをしたのか、今年の方法と結果をまとめる。 ○ 残雪に対する大造じいさんの思いがわかる文章を見つけて書き抜き、その気持ちの変化について自分の考えをまとめ発表する。 	<p>【関】目あてに取り組むため、すすんで音読しようとしている。</p> <p>【読】大造じいさんの気持ちが表れた文章を本文から見つけている。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の目あてを確認、学習場面を音読する。 ○ 2の場面を読み、大造じいさんが残雪をとらえるためにどのようなことをしたのか、今年の方法と結果をまとめる。 ○ 残雪に対する大造じいさんの思いがわかる文章を見つけて書き抜き、その気持ちの変化について自分の考えをまとめ発表する。 	<p>【関】目あてに取り組むため、すすんで音読しようとしている。</p> <p>【読】大造じいさんの気持ちが表れた文章を本文から見つけている。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の目あてを確認、学習場面を音読する。 ○ 3の場面（前半）から、大造じいさんが残雪をとらえるためにどのようなことをしたのか、今年の方法をまとめる。 ○ 3の場面（後半）の、残雪・はやぶさ・大造じいさんの行動や気持ちのわかる部分にサイドラインをひく。 	<p>【関】目あてに取り組むため、すすんで音読しようとしている。</p> <p>【読】大造じいさんの考えた方法を本文の中から見つけている。</p>
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の目あてを確認、学習場面を音読する。 ○ はやぶさと残雪の戦いのようすを読み取る。 ○ 残雪に対する大造じいさんの思いがわかる文章を見つけて書き抜き、その気持ちの変化について自分の考えをまとめ発表する。 	<p>【関】目あてに取り組むため、すすんで音読しようとしている。</p> <p>【読】大造じいさんの気持ちが表れた文章を本文から見つけている。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の目あてを確認、4の場面を音読する。 ○ 残雪が北の空へ飛び去っていく姿をいつまでも見守っていた大造じいさんの気持ちを想像して、その思いを日記の形式で書き友達と交流する。 	<p>【関】大造じいさんの言葉に気をつけながら、すすんで本文を音読しようとしている。</p> <p>【読】登場人物の行動やせりふから、心情を読みとる。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心に残った情景描写を見つけ、効果的な音読の練習をして発表し合う。 ○ 大造じいさんの生き方について、自分と比べながら感想を書き交流する。 	<p>【関】情景描写など優れた表現に気づき、作品を味わおうとしている。</p>

6、本時について（6/8）

① 本時の目標

読 大造じいさんの気持ちを読みとることができる。

② 本時の展開

段階	児童の活動	教師の関わり・支援	留意点・評価
見 つ め る	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの学習を振り返る。 ○学習の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 大造じいさんの気持ちを読みとろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○3の場面（後半）をそれぞれで音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返らせる。 ・学習の課題を確認させる。 ・読めない児童に寄り添って支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を把握できたか。
追 求 す る	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな影が空を横切った。そのときのようすをつかむ。(残雪はどのくらいのところにいるのか。) ・目の前にあらわれた。 ・今まで、こんなに近づいたことはない。 ・りこうな残雪なのに。 ○「残雪の目」には何がうつっていたかを読み取る。 ・人間もはやぶさもなかった。救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけだった。 ○がんとはやぶさの違いを見つける。 ・がん(水かきの足 たにしやどじょうを食べるくちばし) ・はやぶさ(鋭いつめをもつ足 肉を引き裂くくちばし) ・(残雪ってすごいな。) ○残雪をうたない大造じいさんの気持ちを考える。 ・自らの危険を顧みない残雪へのおどろき。 ・仲間のことしか考えない、しかもおとりのがんに対する行動へのおどろき。 ・ありえないことがおこっていることへのおどろき。 ○なぜ大造じいさんはかけつけたのかを考える。 ・早く見てみたい。 ・心配だ。じっとしてられない。 ・戦いを止めさせたい。 ・残雪を助けたい。 ○前時までの、大造じいさんのようすや気持ちを振り返る。 ・「しめたぞ！」夢中でかけつけた。 ・「ほほう、これはすばらしい！」声をあげて喜んだ。 ・勝ちほこるようのがんをつかんだだろう。 ・何としても残雪をしとめたい思いがあった。 ・いまましいとまで感じた残雪への思いがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「残雪だ。」に着目させる。 ・「油断なく地上を見下ろしていた残雪」、「たまの届くきよりの三倍もはなれている地点をえ場にしていた」残雪をふり返らせる。 ・がんとはやぶさの力関係を確認させる。(がんとはやぶさの写真を提示する。) ・はやぶさに立ち向かう残雪がいかにすごいかを感じさせる。 ・残雪を撃てない大造じいさんの気持ちを考えさせる。 ・かけつけた大造じいさんの気持ちを考えさせる。 ・じいさんがおとりをつかまえた時のことをふり返らせる。 ・以前の、大造じいさんの残雪への思いもふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読 大造じいさんの気持ちを読み取ることができる。 ・努力を要する状況の児童へは、大造じいさんの動きを追って見つけられるよう支援する。
深 め る	<ul style="list-style-type: none"> ○大造じいさんは、どのように手をのばしたのかを考える。 ・やさしく手をのばした。 ・がんとを抱くようにしのばした。 ・「強く心を打たれて」手をのばした。 ○手をのばした時、もし、残雪に一言声をかけるとしたら、大造じいさんは何と声をかけたのか考える。 ・大丈夫か。しっかりしろ。死ぬんじゃない。 ・残雪、おまえはすごい。 ○最後の一文を、心をこめて音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習をふり返りながら、どのように手をのばしたかを考えさせる。 ・大造じいさんの気持ちを考えさせる。 ・余韻をもって学習を終えられるような音読をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読 大造じいさんの気持ちを読み取ることができる。 ・努力を要する状況の児童へは、今までの学習を振り返りながら考えられるよう支援する。

(3) 本時の評価

読 大造じいさんの気持ちを読みとることができたか。